

将校の常識外れ

（大正8年8月）

陸軍中将 佐藤 鋼次郎

編集委員長…過去の偕行記事の中から興味深いものを紹介する。佐藤中将の『随感随録』である。デモクラシー全盛時代、軍縮が叫ばれる大正期の高級司令部に幕僚が多すぎると批判しているが、本質的には、多すぎる幕僚に全てを任せて、何もしない殿様のような司令官を憂いておられる。

今の自衛隊には仕事が多すぎる。幕僚が多すぎて与える仕事がないようなことはない。ただ、師団長が汽車賃やホテル代を自ら支払うことはない。それでも、米の値段やホテル代は知っているとしたい。

●幕僚の煩累（わずらわしいこと）

わが国の高等司令部ほど幕僚の多い国は、他に例がないのではないかと思う。高等司令部でなくても、聯隊本部でさえ人が多すぎて各人にそれぞれ何か適当な仕事を命ずるにも困るくらいである。

もしも聯隊長が欧米のように自ら仕事を流儀であつたら、聯隊付きは、手持無沙汰で何ともしようがないので

ある。

それで、わが国では聯隊長でさえ一段高くとまっていた、部下に任せておけば、何とか成るものだと思つている。自分が手を出したくても、辛抱して黙っている。

我が国の聯隊長以上の団隊長としての精神修養として一番困難なことは、「ただ黙っていること」、「これさえ出来たらわが国では高等司令官として合格することができたものであるが、欧米ではそれは不合格である。

高等司令官たる資格を得たお蔭をもつて、益々殿様となつて、何でも幕僚任せ、聯隊付き任せ、副官任せ、従卒任せとなる。当然、旅行しても汽車賃も知らず、宿舎料も知らない。

昔、ある時、名君の誉れ高き殿様が、ご家老に向かい「コメが大変高くなつたそうじゃ。3両もするそうじゃないか」と仰せられたので、ご家老は痛くその明德さを嘆賞されたそうだ。

ところが、その殿様は後でひそかに近習に聞かれたそうである。「3両とは1升の値か。1斗の値か、ひよつとして1石の値か」と。

老婆心ではあるが、わが国の現在の高等司令官もご注意なされないと、新時代に対する理解において、米の値段も知らないというようなことになりはすまいかと憂うるのである。